緑化テールアルメ工法

NETIS掲載終了
TH-990034-VE

壁面を全体的に緑で覆うことによって周辺環境に調和します。

緑化テールアルメ工法(テラトレールF2工法)は、テールアルメ工法の技術を適用しており、安定性に優れた高盛土の傾斜壁面の構築が可能です。また壁面材にメッシュパネルを使用しているため緑化することができます。
メッシュパネルは経済性の高いシンプルな形状を採用し、パネル自体の自立性が確保されているので施工性にも優れています。
※壁高6m以下の場合には「テラトレールEG6工法」をおすすめします。

●特長

1.テールアルメ工法の理論を適用
緑化テールアルメ工法の構造原理はテールアルメ工法と同じであり、その技術は数多くの実績に裏付けられています。

2.周辺環境との調和
傾斜壁構造のため、視覚的圧迫感を軽減し、また緑化された壁面は自然に融和し無機質な冷たさを和らげます。

3.自由度の高い設計が可能
壁面傾斜角は任意(1:0.2～1.0)に設定できるため立地条件に応じた設計が可能です。

4.優れた経済性
部材の数は少なく、また全てシンプルな形状のものを採用しているので経済性に大変優れています。

5.効率的な施工
メッシュパネルは軽量で、しかも自立性が確保でき効率のよい施工が可能です。

6.フレキシブルな構造
壁面材にメッシュパネルを使用したフレキシブルな構造のため追随性に富み、比較的軟弱な地盤においても施工可能です。

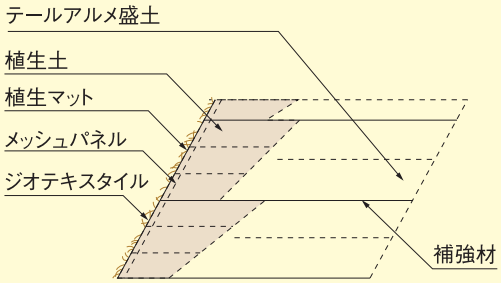
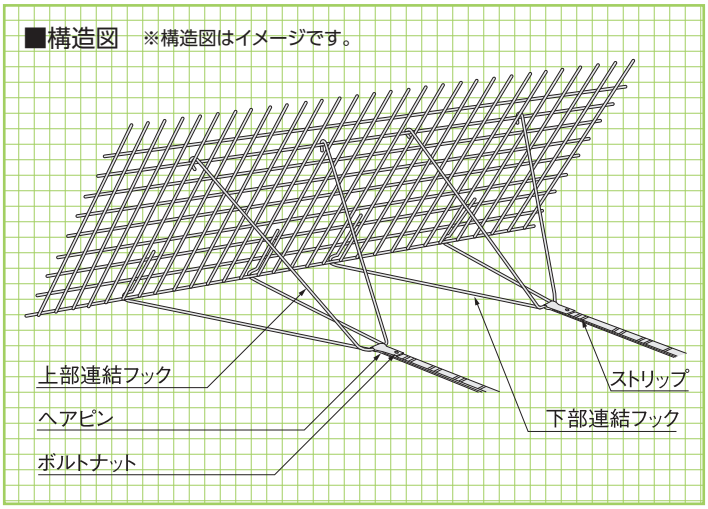
■盛土材料の適用範囲

テールアルメ壁に適用可能な盛土材料は、次に示す〔A1〕、〔A2〕、〔B〕、〔C〕材料に分類でき、〔A1〕もしくは〔A2〕材料を用いる事を原則とします。
また、〔B〕、〔C〕の材料を適用する場合は、綿密な調査を実施したうえで、慎重な設計、施工を行う必要があります。

〔A1〕 細粒分の含有量が25%以下の土質材料。
〔A2〕 250mmを超える大粒径のものを含まない硬岩ずりで、75mmふるい通分中の細粒分の含有量が25%以下、かつ、大小粒が適度に混合して締固めしやすいもの。
〔B〕 細粒分の含有量で25～35%の土質材料。
〔C〕 300mmを超える大粒径のものを含まない岩石材料で、75mmふるい通過中の細粒分の含有量が25%以下の材料。

標準敷設図

■緑化壁タイプ　1:0.2～1.0



■構造図　※構造図はイメージです。